令和６年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第２号

令和６年４月１５日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター
TEL　0226-25-8069　FAX　0226-22-1606

今年も高温傾向の天候予報（暖候期予報・３か月予報）が発表されています。登熟期間が高温で推移すると、高温の影響と思われる白未熟粒の発生が多くなるなど、品質の影響が懸念されます。

播種作業は既に開始されていますが、育苗期間におけるハウス内の温度管理に注意するとともに可能な範囲で田植え時期を５月中旬に遅らせて出穂時期をずらし、高温による影響を回避しましょう。

１　基肥

基肥窒素の役割は、初期生育の促進による有効歩数の確保です。窒素量は、作付品種や地力窒素の多少などを勘案して決めましょう。

表１　品種特性に応じた基肥量の目安　（成分量　kg/10a）

品種等	窒　素			リン酸	カリ
	標準品種「ひとめぼれ」	標準品種よりやや減肥	標準品種より減　肥		
土壌型	ひとめぼれ まなむすめ	ヒメノモチ	ササニシキ コシヒカリ みやこがねもち		
多湿黒ボク土	3～5	3～4	2～4	8～10	8～10
灰色低地土	4～6	4～5	3～5	7～8	7～8
グライ土	3～5	3～4	2～4	7～8	7～8
泥炭・黒泥土	3～5	3～4	2～4	8～10	8～10

２　田植え

- ５月 10 日前の田植えは、７月中下旬の低温による障害不稔や８月の高温による玄米の品質低下が発生しやすくなります。５月１０～２０日を目安に行いましょう。
- 活着や初期生育を良好にするため、田植えは温暖無風な日に行いましょう。強風下での田植えでは、植傷みや浮き苗が発生します。
- 植付本数の目標は、稚苗 4～5 本/株、中苗３～4 本/株です。
- 栽植密度はほ場の条件に応じて増減させましょう（表２）。生育量が不足するほ場、海からの冷たい風の影響を受ける沿岸部での疎植栽培は避けましょう。

表２　栽植密度の目標

水田の条件	栽植密度の目安	
	（株／㎡）	（株／坪）
標準的に生育する水田	20～22	66～73
地力の高い水田、初期分げつの盛んな水田	18	59
地力の低い水田、高冷地の水田、穂重型品種	24～26	79～86

３　田植え後の水管理

・田植直後：葉先が 2～3cm 出る程度の**深水管理**により、早期活着を促します。
・活　着　後：水深 2～3cm 程度の**浅水管理**により、初期生育量を確保しましょう。
（低温や晩霜のある場合は、水深 5～6cm 程度の深水）

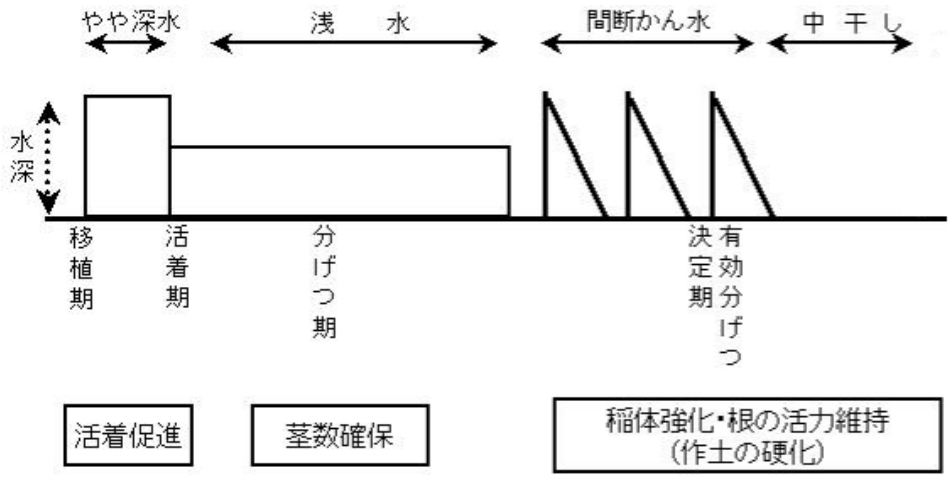

図１　水田水管理体系（慣行）　移植期から中干しまで

４　除草剤散布

除草剤の効果を十分高めるために、次の点に注意しましょう。

（１）適正な薬剤の選定

・前年に多く発生した雑草や、毎年発生が見られる雑草の種類に応じた薬剤を選択しましょう。
・毎年雑草の発生が多いほ場は、初期除草剤と初中期一発剤または初中期一発剤と後期除草剤を組み合わせた「体系除草」を行いましょう。

（２）ほ場の均平

ほ場内に高低差があると、高い部分は田面が露出しやすくなります。そのような部分は除草剤の有効成分が定着しにくいため、雑草が残りやすくなります。代かきはていねいに行い、高低差をなくすような作業を心がけましょう。

（３）適期に散布

ノビエなどの雑草の葉齢を確認し、遅れずに散布しましょう。散布する時期の目安となる葉齢は、ほ場内で最も生育の進んだ個体の葉齢になります。

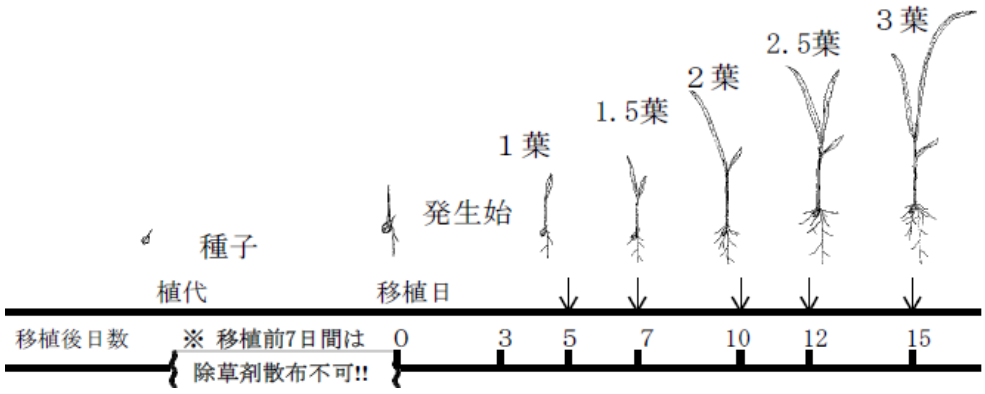

図２　宮城県における水稲移植後のノビエ発生葉数の目安

注）５月中旬移植、植代～移植が４日程度の場合であり、植代～移植の日数が伸びれば葉数が早まることに注意する。

（４）除草剤散布後の水管理

水稲用除草剤の多くは、湛水状態で有効成分が拡散し、田面に定着することで除草効果を発揮します。散布後７日間は落水やかけ流しは行わないようにしましょう。

田面が露出した場合は、その部分の除草効果が低下するので、静かに給水（継ぎ水）を行いましょう。

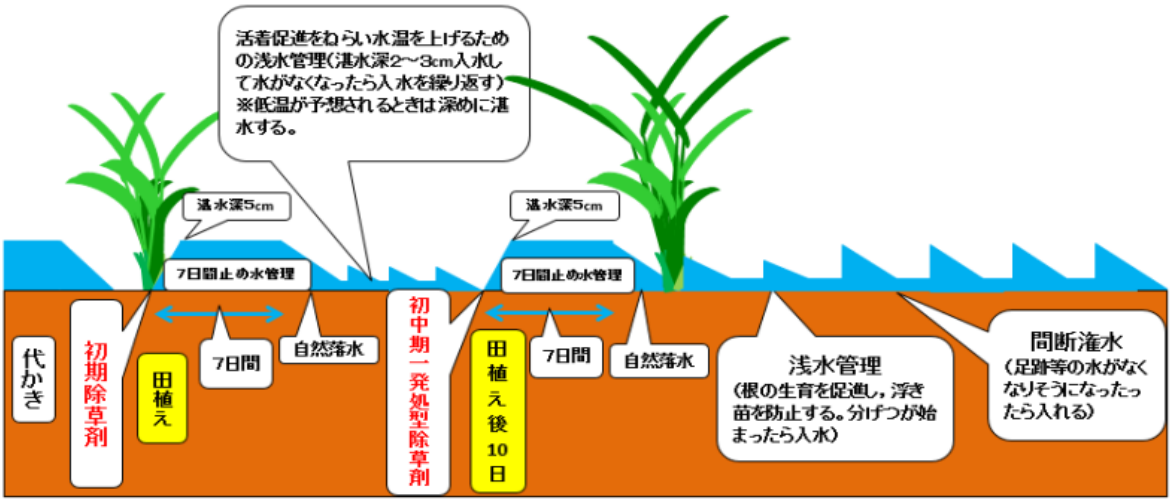

図３　初期除草剤＋初中期一発処理除草剤の体系による水管理

○向こう１か月の天候の見通し　東北地方　（4/13～5/12）

仙台管区気象台　4/11 日発表

暖かい空気に覆われやすいため、**向こう１か月の気温は高い**でしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

気　　温	**高い**の見込み
降 水 量	**ほぼ平年並**の見込み
日照時間	**ほぼ平年並**の見込み

○農作業安全確認運動展開中！　（実施期間 令和６年３月１日～６月３０日）

令和６年 農作業安全確認運動スローガン

【徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策】

県内における過去 10 か年の農作業死亡事故は、農業機械作業に係る事故が全体の約８割を占め、そのうちトラクターによるものが半数を超えます。また、60 歳以上の死亡事故は約９割と高い割合となっています。

シートベルトやヘルメットの着用を徹底するとともに、路肩の踏み外しにも十分注意しましょう！

次回の稲作情報第３号は、６月 11 日頃の発行となります。